

島田市地域公共交通計画（案）

令和 5 年 12 月



目次

序章 はじめに1

- 1 計画策定の背景と目的
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の構成

第1章 島田市の現状6

- 1 島田市の概況
- 2 人口
- 3 交通事故
- 4 通学利用
- 5 まちづくり
- 6 観光
- 7 空港

第2章 公共交通の現状20

- 1 市内の公共交通
- 2 公共交通の利用状況
- 3 現在の公共交通の問題点
- 4 島田市の公共交通の課題整理

第3章 20年後の公共交通のすがた50

- 1 市民の生活を支える公共交通
- 2 市民の豊かなくらしを支える公共交通
- 3 活気のあるまちなかを作るための公共交通
- 4 島田市をまるごと楽しむための公共交通

第4章 基本方針と目標54

- 1 基本方針
- 2 目標
- 3 公共交通網の全体像
- 4 施策の実施主体

第5章 評価指標と計画の進行管理70

- 1 計画の定量的な目標・効果とその評価手法
- 2 計画と補助事業の実施、評価スケジュール

巻末 資料編72

- 1 関連計画の詳細
- 2 アンケート調査結果
- 3 ワークショップ開催状況
- 4 住民部会での意見交換

1 計画策定の背景と目的

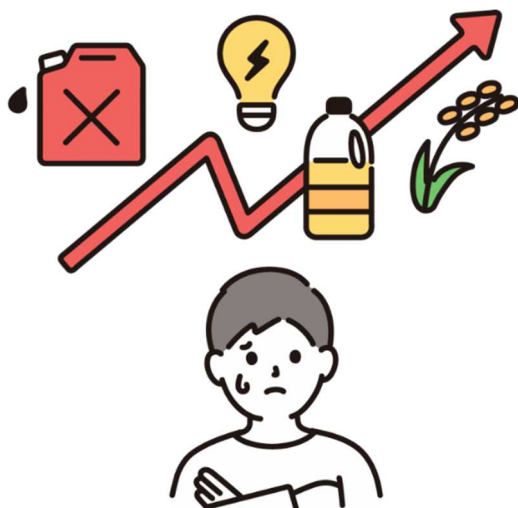
島田市では、市民の日常生活に必要な移動を支えるために、バスや鉄道、タクシーなどの公共交通が走っています。特にバスに関しては、令和4年度の時点で17路線を運行しており、人口が同規模の近隣市よりも路線数が多くなっています。

	島田市	近隣市		
		A市	B市	C市
人口 (令和2年度国勢調査)	約9万5千人	約14万1千人	約13万7千人	約11万5千人
バス路線数※	17路線	16路線	8路線	15路線

※民間運行路線、デマンド乗合タクシー等を含む。空港アクセスバスを除く。

しかし、近年は人口の減少やコロナ禍における生活様式の変化などにより、公共交通の利用者は年々減少しています。

例えば、市が運行するコミュニティバスの年間利用者は、ここ5年間で約3割減少しました。乗客がない状態で走るバスが目立つようになり、それを見た市民の方から「予算を使って空気を運ぶバスを走らせるのは無駄ではないか」という御意見をより多くいただくようになりました。



さらに、運転手不足による人件費の上昇や原油価格高騰による燃料費の上昇が原因となり、島田市を含む全国各地で公共交通にかかる経費が上昇しています。

他の自治体では、赤字が拡大して事業継続が厳しくなり、事業者が撤退してしまう路線も出てきています。

将来にわたって公共交通事業を継続していくためには、運行内容を見直し、地域が必要とする公共交通に変化していく必要があります。

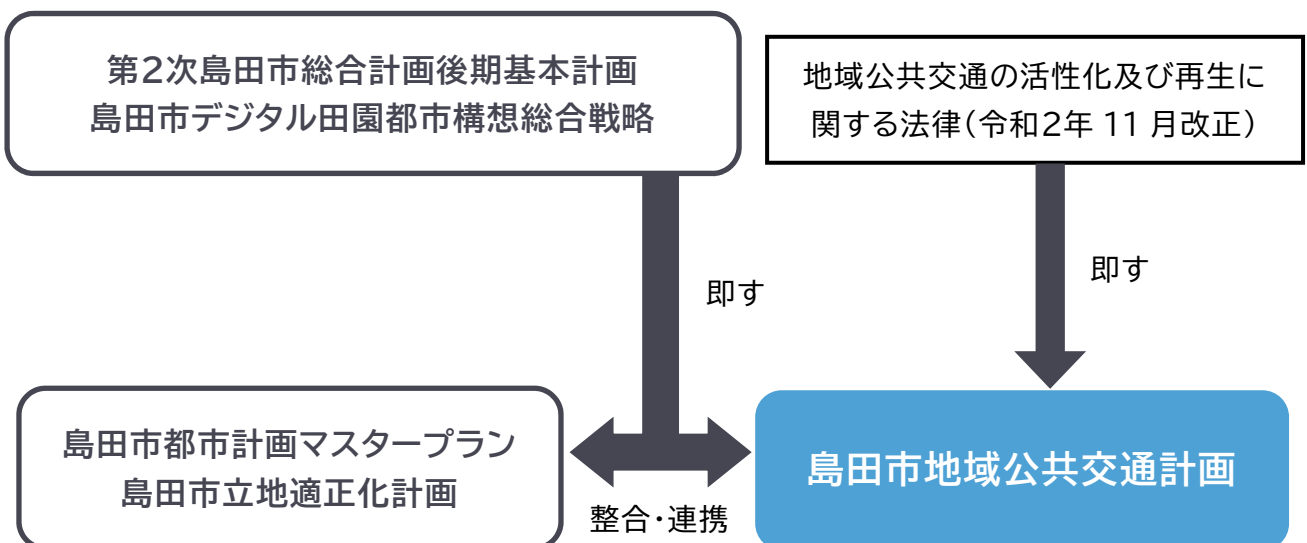
「島田市地域公共交通計画」は、今後の公共交通施策についての方針や目標を決定し、市民の皆さんにお伝えすることを目的としています。

本計画は、地域の代表の方々やバスの利用者の皆さんからお聞きした御意見を取り入れて策定しました。今後もこの計画をもとに、地域住民との話し合いを通じて具体的な公共交通のかたちを決定していきます。

計画対象区域	島田市全域
計画期間	令和6年度から令和10年度までの5年間

2 計画の位置づけ

地域公共交通計画は、市がすでに策定した他のさまざまな計画と関連しています。



島田市の将来像およびその実現のための施策を示した、市の最上位計画です。

島田市の将来像

笑顔あふれる 安心のまち 島田

地域の実情にあった公共交通を運行します

基幹となる民間路線バスとコミュニティバスに加え、地域の実情に応じて、タクシーやワゴン車両による運行のほか、自治会やNPO団体といった地域活動を支えている関係者との連携による地域の自主的な交通手段確保の取り組みへの支援、スクールバスの余力を活用した交通の導入などにより、「島田市立地適正化計画」など関連計画との整合を図りながら、将来にわたり持続可能な公共交通網の構築を進めます。

島田市デジタル田園都市構想総合戦略

計画期間
令和6年度～令和9年度


人口減少を克服・適応しながら、デジタルの力を活用し地域課題の解決と地方創生を推進していくための計画です。

基本目標4

水と緑に囲まれた持続可能な暮らしやすいまちづくり

効率的で、持続性の高い公共交通体系の構築

通勤・通学、買い物や通院などの利便性の確保及びコンパクト・プラス・ネットワーク^{※1}の都市づくりの実現に向け、誰もが利用しやすい公共交通の確保・充実を図るとともに、バス・タクシー・ワゴン車両などを活用したデマンド運行^{※2}などの多様な手段による新たな公共交通の導入を図り、今後も持続可能な公共交通網を構築する。

※1 コンパクト・プラス・ネットワーク・・・人口減少・超高齢社会にあっても、持続可能で誰もが安心して暮らしやすい都市生活を営むことができることを目指す都市づくりの考え方。また、その考え方に基づき、生活に必要なサービス施設や行政機能、居住の場を市街地や地域拠点に集約・誘導し、その拠点間は公共交通などによるネットワーク化を図る都市の形(都市構造)のこと。  P.14

※2 デマンド運行・・・バスや電車などのようにあらかじめ決まった時間帯に決まった停留所を回るのではなく、予約があった時のみ運行する移動サービス。

島田市都市計画マスタープラン

計画期間
令和2年～令和22年

都市の将来像を設定し、都市づくりの方針や総合的な土地利用の方針などを示す計画です。

都市の将来像

大井川がつなぐ コンパクトなまち'S

～連携・協働によるコンパクト・プラス・ネットワークの都市づくり～

公共交通の方針

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの実現に向け、誰もが移動しやすい公共交通手段の確保・充実のため、鉄道、バス・ワゴン車・タクシー等を活用したデマンド運行などの、多様な手段の組み合わせにより中心拠点等と拠点周辺を結ぶ公共交通網を形成します。また、モーダルコネクト※3の取り組みにより、鉄道駅やバスの合流点などを交通結節点として位置付け接続を強化し、乗り継ぎの利便性、快適性ととも、効率性を高めます。

島田市立地適正化計画

計画期間
令和4年～令和22年

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの方針や具体的施策を示す計画です。



都市づくりの方針

誰もが多様な暮らしを楽しめるまちづくり

～多世代をつなぐ“シマニワ”づくり～

多様な移動手段による都市の形成

拠点間や地域内を効率的・効果的に運行する公共交通ネットワークを形成し、自家用車を使わなくても移動できる移動環境を目指します。

※その他の関連計画については、巻末資料をご覧ください。   P.72

※3 モーダルコネクト・・・多様な交通手段を接続・強化し、利用者が多様な交通を選択しやすい環境をつくること。

3 計画の構成

公共交通を取り巻く現状と問題点

- ・公共交通を取り巻く現状を紹介します。
- ・利用者、交通事業者、市の3者それぞれから見た悩みを整理します。

第1章 島田市の現状 ▶ P.6

人口/高齢化/通学利用/まちづくり/観光/空港

第2章 公共交通の現状 ▶ P.20

利用者の悩み/事業者の悩み/市の悩み

島田市の公共交通の課題 1～5 ▶ P.48

めざす将来像

- ・地域の皆さんのご意見をもとに、公共交通における理想の将来像を表現します。

第3章 20年後の公共交通のすがた ▶ P.50

市民の悩みを解決する理想の公共交通とは…？



計画期間内の目標

- ・計画期間内(令和6年度～令和10年度)における方針や目標、施策などを説明します。

第4章 基本方針と目標 ▶ P.54



第5章 評価指標と計画の進行管理 ▶ P.70

巻末 資料編 ▶ P.72

関連計画/アンケート結果/ワークショップ結果